

# この人、この本 15

三芳町立図書館 館長

代田知子さん



町立図書館が作った絵本『かえってきた竹間沢車人形』  
ちくまざわくるまにんぎょう

三芳町（埼玉県入間郡）は、二〇一六年に「よみ愛・読書のまち宣言」（四月臨時議会で採択）をし、図書館が担当部署となつて読書のまちづくりを推進しています。また、町の農業遺産や伝統芸能を扱う「三芳町」よみ愛・読書ふるさと絵本」も図書館で制作しています。一作目は、約三三二〇年前から継承される「落ち葉堆肥農法」のサツマイモ栽培を紹介する『おいしくなあれ富<sup>とみ</sup>のいも——日本農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」のサツマイモづくり』（わたなべひろみさく たかいひろこえ 三芳町発行 二〇一八年）。小中学校で郷土を学ぶ資料として大いに活用され、図書館と学校の連携にも役立っています。

そして、この度出版した二作目が、『かえってきた竹間沢車人形——三芳町・伝統芸能をよみがえらせた町』（さげさかのりこさく 三芳町発行 一声社発売 二〇一九年）です。

## かえってきた 竹間沢車人形

——三芳町・伝統芸能をよみがえらせた町——



一作目同様、絵本の制作は館長の私が担当し、監修も兼ねています。小学生が楽しめて、車人形の魅力と、人形芝居を長年牽引してきた人たちの思いが伝わる絵本にしたいと、作家のさげさかのりこさん、編集者の黒住恵子さん、ブックデザイナーの守先正さんと何度も打ち合わせを重ね、楽しみながら丁寧に作りました。

車人形とは、操者がろくろ車に腰を掛け前後左右に動いて演じる人形芝居のこと。江戸時代末期に、現在の東京都昭島市で創案されました。文楽人形（三人で一体の人形を操る）と異なり、一人で一体を操るので少人数で芝居が出来る簡易性から、当時多摩地方で流行していた説教節と結びついて急速に広まりました。

三芳町における車人形芝居の全盛期は、明治・大正期です。やがて時代と共に衰退。大正十年（一九二一）で興行記録が途絶え、人びとの記憶から消えかかっていました。ところが、五十年後の昭和四十六年（一九七二）五月、埼玉県の人形芝居緊急調査を受けた竹間沢の里神楽師、前田家の納戸から、ほこりまみれの箱に入った車人形の芝居道具一式がほぼ欠損することなく発見されたのです。新聞に大きく「半世紀ぶり三芳の車人形」と報道され、町は大騒ぎに……。自宅で車人